

# '10.5

毎月1回20日発行 定価 1部60円  
発行所 兵庫県商工会連合会  
発行人 会長 木南岩男  
神戸市中央区花隈町6の19  
☎078(371)1261(代)〒650-0013  
http://www.shokoren.or.jp/  
編集人 安平一志  
印刷所 大和出版印刷株式会社  
会員の購読料は会費に含んでおります

第 633 号

# 兵庫県 商工連会報

(題字は井戸知事)

Hyogo Prefectural Federation of Societies of Commerce and Industry



▲製造工程を見学できる「観光工場」と株トキワのスタッフたち（前列中央が柴崎一秀社長）

## Contents

- 県連合会Letter 2頁
  - ・ 臨時総会
  - ・ 県連合会組織の改編
- 商工会Letter 3頁
  - ・ 第七回「さんだ工房市」（三田市商工会）
  - ・ 「生野ハヤシライス」をレトルト商品化！（朝来市商工会）
  - ・ 「竹野おしあげ料理」を、どうぞ召しあがれ（豊岡市商工会）
- あなたのまちの元気な企業（香美町） 4頁
- 地域力連携拠点事業 5～6頁
  - ・ たんたん連携いもの発掘支援相談会
  - ・ 事業承継マッチング交流研究会
  - ・ 地域力連携拠点事業研修会

創業大正元年、食酢醬油製造から始まり、発酵食品製造業を営む株式会社トキワ（代表取締役・柴崎一秀氏）は、松葉ガニ料理用の調味料、特産の二十世紀梨の酒、看板商品である「べんりで酢」等、地域資源を活用し、新しい商品を開発している。オリジナル商品の飲むお酢「梅ごこち」は、モンドセレクション金賞を受賞した。

平成十四年に新工場を設立し、平成二十年には城崎温泉の木屋町小路に直販店の「城崎ビネガー」をオープン。温泉客に飲むお酢の魅力を伝えている。

平成二十年度には先進的技術サービスで地域の発展、地域の活性化への尽力が評価され、「但馬産業大賞」を受賞した。

（関連記事 四頁）

## 「一念天地感動」

― 念じ続けて努力すれば、願いは必ず叶う ―

株式会社 トキワ

（香美町）

平成二十一年度スローガン  
**「商工会は行きます 聞きます 提案します」**  
 ～平成二十一年度 臨時総会～

県連合会は、三月二十六日、「ホテル北野プラザ六甲荘」で平成二十一年度臨時総会を開催した。

当日は、木南会長が挨拶を述べた後、商工貯蓄共済・商工安全共済推進運動の表彰が行われ、当会から表彰状と表彰金、県共済から記念品が贈られた。引き続き、来賓の兵庫県産業労働部・高井部長より祝辞があった。

その後、「事業仕分けから見た公的機関（商工会）の役割」と題して兵庫県立大学大学院の中野雅至准教授を講師に招いて、研修会を行った。

研修会終了後、市川町商工会の中川会長を議長に選出し、次の五議案の審議を行った。



▲中野雅至准教授による講演

平成21年度 共済推進運動表彰

1. 商工貯蓄共済・商工安全共済 両目標達成
  - ・多可町商工会
  - ・稲美町商工会
  - ・神河町商工会
  - ・市川町商工会
  - ・福崎町商工会
2. 商工貯蓄共済 目標達成
  - ・竹野町商工会
  - ・浜坂町商工会
  - ・温泉町商工会

- ①定款の一部改正について  
平成二十二年に予定されている商工会合併が整えば、商工会数が二十八に減少するため、当会と商工会の連携を密にし、組織を挙げて課題解決に取り組めるよう全商工会会長を役員に登用し、県当局の定款変更承認を経て、施行することとした。
- ②平成二十一年度収支補正予算設定について
- ③平成二十二年事業計画並びに収支予算設定について
- ④平成二十二年借入金最高限度額の設定について
- ⑤役員候補選任について  
いずれの議案も原案のとおり承認された。

県連合会組織の改編

県連合会では、本年四月一日付で商工会職員県連帰属化を実施するに当たり、組織を挙げて諸課題の解決に取り組むため、職員研修課を新設し、併せて各課の分掌を見直すため、組織改編を実施した。

総務部に総務課、職員研修課（新設）及び業務推進課の三課、事業部に組織支援課、経営支援課及び本部広域指導センターの二課一センターを置く。

職員研修課は、人事交流及び人事管理、職員の研修事業、職員協議会の運営指導、職員等の福利厚生、商工会職員退職金共済並びに人事管理委員会等の運営を一元的に分掌する。

県連合会の専務理事に安平一志氏、  
 常務理事 兼 事務局長に増田登司氏が就任（平成22年4月1日付）



常務理事 兼 事務局長  
 ますだ たかし  
**増田 登司 氏**



専務理事  
 やすひら ひとし  
**安平 一志 氏**

業務推進課は、中小機構等の行う共済制度の分掌を加え、共済事業並びに融資制度を一元的に管轄する。

組織支援課は、旧来の指導課と組織支援課を統合し、商工会の運営指導、青年部・女性部の指導育成と運営指導、商工青年同友会の運営指導、ネットワーク機器の構築及び運用・管理を分掌する。

経営支援課は、専門的な経営指導や地域経済活性化対策事業等と共に中小企業応援センター事業を分掌する。

主な行事予定

- 5月のこよみ**
- 7日金 県青連通常総会
  - 10日金 第一回正副会長会
  - 14日金 第一回理事会
  - 28日金 第四十九回通常総会
  - 31日金 全国連通常総会
- 6月のこよみ**
- 24日金 コーディネーター養成研修会

私たちは、兵庫県の皆さまとともに歩いていく、  
 地域金融機関です。



ご融資の相談は  
 お気軽に「けんしん」へ

■詳しくは窓口へおたずね下さい。

いまでも これからも いつまでも  
**兵庫県信用組合**  
 けんしん

〒650-0023 神戸市中央区栄町通3-4-17  
 TEL 078-391-6315  
<http://www.hyogokenshin.co.jp/>

市街地ファンの増加を目指す  
第七回「さんだ工房市」  
〜三田市商工会〜

三田市商工会(日下隆三会長)は、三月十六日〜十八日の三日間、J・R・神戸電鉄三田駅前ペデストリアンデッキにて、第七回「さんだ工房市」を開催した(年四回開催)。

当事業は、三田駅前にて開催することにより、市街地商店街への導線を確保し、「市街地ファンの増加による市街地商業活性化を推進すること」を目的とする。三田市の補助を受けて同会が主催し、市街地商店街が協賛して開催している。

今回は、協賛店三十三店舗が「二店舗一品サービス運動」を展開。会場には、近畿・東海・



▲お気に入りの作品を選ぶ参加者たち

中国地方などから八十七名のプロ工芸家が出店し、市内外から約一万二千五百人の来場があった。自慢の工芸作品が勢揃いし、彩り豊かな作品の中からお気に入りの逸品を購入することができ

る。今後は、会場に隣接する大型店や商店街と連携しながら、中心市街地商店街の活性化に向けた起爆剤となるべく、継続的に開催していく。次回は六月八日〜十日の開催を予定している。

家庭でも懐かしの味を楽しめる  
「生野ハヤシライス」を  
レトルト商品化!  
〜朝来市商工会  
(旧生野町商工会)〜

旧生野町商工会(奥藤博司会長)では、全国商工会連合会事業地域資源∞全国展開プロジェクト事業で、生野町の地域グルメ「生野ハヤシライス」をレトルト商品化した。

生野鉾山が栄えた昭和の高度経済成長期に、東京などから赴任した生野鉾山の転勤者が家庭料理としてハヤシライスを振る舞い、住民の間で評判になった。ハイカラなハヤシライスは、現在でも同町のご当地グルメとし



▲(左) 30年代トマトベース、(右) 40年代デミベース

て親しまれており、昨年から想い出のハヤシライスを復刻再現する動きが広まり、現在では生野町内十店で店ごとに個性のある「生野ハヤシライス」を味わえるようになっていく。

「生野ハヤシライス」のレトルト商品化は、ご当地グルメのPR商品として幅広く発信し、観光客誘致を図ろうと、同商工会が開発を進めてきた。発売するのは、酸味のあるトマトソースがベースの「昭和三十年代の味」とデミグラスソースの深みのある味がベースの「昭和四十年代の味」の二種類で、朝来市内の「道の駅」などで販売していく。

「竹野おしあげ料理」を、  
どうぞおしあげ  
〜豊岡市商工会〜

豊岡市竹野町は、かつて北前船の寄港地として栄えていた。

北前船とは、江戸時代から明治時代にかけて、山陰から瀬戸内を回って大阪に入る航路(下りはこの逆)、または、この航路を行きかう船のことである。

当時は、海が荒れて船が転覆し、命を落とす船員も多く、残された家族は船の安全と無事を日々願った。シーズンを終えて船が戻ると、待ちわびていた家族は一年間の労をねぎらうとともに、無事の帰港を神様や関係者に感謝し、「おしあげ」と称



▲地元でとれた食材を使った「竹野おしあげ料理」

した豪華な料理を振る舞った。これが「竹野おしあげ料理」の始まりである。

体長一メートル、体重二十キロの巨大な竹野イカ(赤イカ)をはじめとする竹野町ならではの食材を使用し、竹野産の調味料で味付けしたおしあげ料理は現代に受け継がれ、竹野町の各旅館や民宿で味わうことができ

る。竹野町を訪れた観光客に、感謝の気持ちと家内安全を願って、心を込めたおもてなしを提供している。

(豊岡市商工会 竹野支所)

〇七九六一四七一一七七一

住友生命

貯めて、使える。

保険を超える保険

LIVE ONE

スミセイ総合生活口座 | ライブワン |

# あなたのまちの元気な企業①⑦

## 株式会社 トキワ

香美町

### 創業の経緯

株式会社トキワは、社長の柴崎一秀氏の祖父が、大正元年に食酢製造業で創業。戦後は醤油製造業も始めたが、大手メーカーが台頭し、地方の零細メーカーは生き残りが難しかったため、地域資源を活用した商品を手掛け、看板商品である「べんりで酢」を開発。通信販売の柱となる大ヒット商品となった。平成十四年頃に新工場を設立し、平成十八年に通信販売部門を独立させるため、常盤商事株式会社を設立した。

### 経営理念

経営理念は「醸造・醗酵技術をベースに、食文化の伝統を科挙し、食を通じて健全なる心身づくりを提案し、もって社会に貢献する」である。同社では人間が生きる上で一番必要な「食」を扱っている。何においても「おいしい」ということが大前提で、それが「安心」で「身体にとっていいもの」であり、食事を作ることが楽しくなくてはならな

い。これは「食」を扱う会社の使命である。

顧客のニーズをつかみ、新しい市場を作っていくことで、大手メーカーをリードできる。種まきを続けることで、次々に芽が生え、試行錯誤を続けることで新しい商品が生まれる。商品は店頭で置くだけでなく、食べる人の顔まで思い浮かべ、提案しながら売っていききたい。

### 経営革新

平成十三年八月には経営革新計画が承認され、独自技術を生かした新製品の開発や製造能力の拡大を図り、消費者に直接販



▲地域資源を活用した自慢の商品ラインアップ

売できる体制を確立し、事業基盤の強化を目指した。製造工程を見学できる「観光工場」と梨ワインの試飲もできる「商品直売店」の完成に加え、顧客データベースの構築を確立し、計画終了時点で全体の売上高・付加価値額は四年間で約二倍の伸びを達成することができた。特に通信販売部門の売上が伸び、売上構成比の六割を超えるまでになっている。現在の顧客五万人を十万〜十五万人とすることを目標としている。

### こだわりの商品

・べんりで酢  
全国の生協と取引をしており、べんりで酢の料理講習会や情報交換会を開催。安心で安全な本物を使いたいという消費者の声を大切にしている。  
・かにすきダシ、ポン酢  
但馬名産の松葉ガニをおいしく食べるには、地元で食べるのが一番であり、地産地消を考え、カニを料理するための調味料を開発。

・梨ワイン  
香美町は兵庫県の最大の二十世紀梨の産地。原材料の梨を、有効活用する方法を考え、発酵の技術を生かした。開発からは二十五年かかり、すっきりしたくせのない味に仕上げた。

・梅ごこち  
近くの天満宮分社から、梅の製品を作ってほしいと依頼があり、梅酒でなく酢を使った健康飲料を開発した。昨年にモンドセレクション金賞を受賞した。  
・但馬牛醤油  
道の駅「村岡ファームガーデン」と共同研究。北大路魯山人の「牛肉には煮切り酒と梅干しが一番合う」をヒントにした。味のバランスが難しかったが、嘔むごとくうまみが出る素晴らしい調味料ができた。

### 地域へのおもい

地元の会社になってもらうのが一番である。地方にも素晴らしい企業が数多くあるのに、安易な企業誘致より、地域に根づいている企業を育てるサポート体制を考え、雇用創出することで、若い人を増やしたい。これからは世界的視野で発想し、地域戦略を考えていかなければならない。先人が苦労して育ててくれた「但馬牛」という全国ブランドでもっと戦っていくべきである。山陰海岸国立公園一帯がジオパークとして登録されれば、世界に誇れる地域資源の柱になる。第三セクター「ファミリーイン今子浦」が地域資源活用の認定を受けたように但馬が一体となって他所にな

る。一人ですべてを立てるのは難しく、強み、弱みは第三者に言われて気づくことが多くある。商工会の指導が有効であるように思う。企業展開を支援するの、商工会の本来業務であり、どうやって守り攻めていくかという観点を忘れずにいてほしい。

### 商工会に望むこと

会社の羅針盤となる事業計画を作ることは、会社の将来を考える上で非常に重要である。五年後、十年後、五十年後にどうしたいかを考えていくことで、会社の状況を正しく理解できる。一人で計画を立てるのは難しく、強み、弱みは第三者に言われて気づくことが多くある。商工会の指導が有効であるように思う。企業展開を支援するの、商工会の本来業務であり、どうやって守り攻めていくかという観点を忘れずにいてほしい。

#### 企業概要

- ①企業名 株式会社トキワ
- ②代表者 柴崎 一秀
- ③住所 〒669-6553 香美町香住区三谷735
- ④電話 0796-36-4001  
FAX 0796-36-2694
- ⑤URL <http://www.a-aji.jp/>
- ⑥資本金 2,500万円
- ⑦創業年 1912年(大正元年)
- ⑧従業員 40名
- ⑨商工 員歴 49年

い素晴らしい素材をもっと生かさないといけない。

但馬と丹後 特産品販売で連携  
**たんたん連携いいもの**  
**発掘支援相談会**

三月二十三日に大阪市・経営支援プラザUMEDAにて、「たんたん連携いいもの発掘支援相談会」が開催された。この事業は地域力連携拠点事業の一環として実施され、府県境をまたいで連携する取り組みは、全国的にも珍しい試みであり、今回がそのイベントの第一回目である。



▲特産品づくりのアドバイスを受ける事業所

京都（丹後）・兵庫（但馬）の商工会・商工会議所地域の特産品等の販路開拓、商品改良のため、直接売場で特産品を取り扱っている百貨店売り場担当者や専門家との個別相談会を実施し、消費者ニーズにあった特産品づくりのアドバイスを受けるとともに流通業者との交流の機



▲多くのバイヤーで熱気に包まれる会場

会を提供することを目的に行われた。

当日は、主催者を代表して県連合会の岡田専務理事が開会のあいさつを述べた後、来賓の近畿経済産業局中小企業課の山本課長からあいさつがあった。出展した十八事業所のうち兵庫県からは、但馬地域の九事業所が出展し、会場に訪れたバイヤー等は、四十七企業から六十五名が参加。出展された商品について、活発な意見交換が行われ、会場は熱気に包まれた。最後に、アドバイザーから講評があり、第一回目の事業を終了した。

なお、地域力連携拠点事業は、今年度で終了するが、この「たんたん連携」については、今回の相談会を皮きりに、今後も継続していく予定にしている。

事業承継の展開に向けて  
**事業承継マッチング**  
**交流研究会**

県連合会は、三月十六日に神戸市・シーサイドホテル舞子ビラ神戸で、「事業承継マッチング交流研究会」を開催した。

この研究会は、後継者や事業承継先を探す経営者と新事業、新分野に事業展開を目指す企業をどのようにつなぐのが有効かを考えることを目的として企画。ひょうご産業活性化センターとの共催により開催し、県内全域を対象に商工会、企業経営者、企業の支援者など、約七十名が参加した。

基調講演では、「中小企業が地域社会に承継するもの」をテーマに、富士産業支援センター（静岡県）センター長の小出宗昭氏が、中小企業の新商品開発などを支援した経験を踏まえ、欲しいと思わせる商品やサービスの提供が必要であり、リスクを恐れずに挑戦して欲しいと激励した。また、企業支援者に対しては、中小企業の経営環境が非常に厳しい中、支援のあり方や重要性を認識して欲しいと訴えた。参加者は、「危機感を共有し、身の引き締まる思



▲パネルディスカッションに聞き入る参加者たち

いであった」と感想を述べた。引き続き、「地域社会に貢献する企業づくり」をテーマに、パネルディスカッションを行った。コーディネーターには、兵庫県立大学教授の佐竹隆幸氏、パネリストに但馬銀行の法人営業部長の若林茂氏、弁護士の本豊起氏、日本精機宝石工業株式会社長の仲川和志氏、リレーシヨンス（株）の高橋直也氏の四名を招いた。事業承継のための明確な経営理念とそれを社員と共有すること、担保主義によらない金融制度などについて意見が交わされた。会場からは、中小企業におけるサラリーマン社長の有

始めませんか ～新しい環境貢献～

**ひょうご「企業の森づくり」**

環境への貢献のため、森林整備をお考えの企業や団体等の皆様のお手伝いをします。

- 活動フィールドの斡旋
- 森林整備についての助言・提案・技術指導
- 施業委託先の紹介

◆お問い合わせ先◆

(社)兵庫県緑化推進協会  
 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5-5-18 農林業会館内  
 TEL 078-341-4070 / FAX 078-341-4071

兵庫県農政環境部 環境創造局 豊かな森づくり課  
 〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1  
 TEL 078-362-3144 / FAX 078-362-3954

効性などについて質問があり、日本の株式会社社員の仕組みを変えるための意識改革が必要であるという意見が出された。最後に、佐竹氏が次の四点にまとめた。

- ①早く事業承継に着手し、十分な準備期間を設ける。
- ②外部支援機関などと連携する。
- ③日頃から企業価値や経営品質を向上させる。
- ④ダーウィンの進化論のように、機敏に変化に対応する。

引き続き、希望者による交流会があり、予定していた時間をオーバーし、意見交換や名刺交換が活発に行われた。

# 新たに六名の修了者が誕生 地域力連携拠点事業研修会

県連合会は、三月二十四日（二十五日、神戸市・ホテル北野プラザ六甲荘で、地域力連携拠点事業研修会を開催した。

この研修会は、県内の応援コーディネーターとの連携を強化するとともに、経営支援アドバイザー（以下、経営支援AD）の養成を図り、中小企業の経営課題への対応や、各種支援事業の活用によって、地域活性化に寄与することが目的である。

初日は、「経営革新に向けた商工会職員の活動について」をテーマに、福井県の坂井市商工会・加藤永俊氏が「経営指導員は、企業経営の支援者として関わっていくことが大切である」と力説した。坂井市商工会は全国一の商工会を目指し、志高く日々



▲青森県の地域資源等活用事例を紹介

の経営支援に取り組んでいる。次に経営革新計画への取り組みについて、コア・サポート株式会社代表取締役の黒野秀樹氏が経営革新計画策定のためのポイント・留意点について、具体的な事例を交えて講演した。その後、「地域資源・農工商連携・新連携の活用について」と題して、県連合会統括応援コーディネーター・穴田喜代嗣氏、(財)21あおもり産業総合支援センター応援コーディネーター・加藤哲也氏と山本進氏がコーディネーターの役割や支援方法についての講演を行った。二日目は、加藤氏と山本氏が前日に続いて、「地域力連携拠点事業における先進支援事例について」をテーマに先進的事例を発表。地域資源活用・農工商連携への取り組みについて講演し、企業支援の大きなヒントとなる内容となった。また、助成事業を活用した地域活性化について、但東町商工会・上谷大介氏と丹波篠山・まちなみアートフェスティバル実行委員長・中西薫氏より事例の



▲県下の事例に耳を傾ける参加者

発表があった。参加者からは、このように県下で頑張っている職員がいることは、大きな励みになるとの感想があった。この研修会は、経営支援AD養成研修会の補講にも位置付けられており、新たに六名の修了者が加わり、合計四十六名となった。今後も各地域の事業者に、引き続き顧客満足度の高い経営支援が行えるよう期待するとともに、次年度も同内容の研修会を開催し、さらなる組織力の強化と人材育成に取り組んでいく予定である。

## 【修了証書授与者】

- |       |       |
|-------|-------|
| 福崎町   | 中井 将人 |
| 太子町   | 大原 尚  |
| 佐用町   | 古田 英利 |
| 城崎町   | 百合 高子 |
| 養父市   | 日下部武志 |
| 南あわじ市 | 日外ゆかり |
- (敬称略・順不同)

**新任チーフアドバイザーを紹介します！**  
**高橋 貞夫**  
 【専門分野】  
 人材育成コンサルタント  
 ・マネージメント研修  
 ・モチベーションアップ（気づき）  
 ・自立した組織づくりの指導

【メッセージ】  
 「気づき」から新しい道が拓けるものです。気楽にまじめな話  
 ができる職場づくりのアドバイスをさせていただきます。ど  
 うぞお困りの時やお悩みの時はお気軽にお声かけください。  
 「気づき」のナビゲートをさせていただきます。

**ひょうご中小企業応援センター**  
**コーディネーター紹介**

 まつもと しげき 松本 茂樹	 やまもと よしあき 山本 義明
 ふじい まさよし 藤井 政良	 おにし としゆき 大西 敏之

**—中小企業と共に50年—**  
 商工会の共済事業として会員の福利厚生をお手伝いする

**県 共 済**

兵庫県火災共済協同組合  
 兵庫県共済協同組合

神戸市中央区中山手通7丁目28番33号（県立産業会館内）  
 ☎ 078-361-8080(代) Fax 078-371-6757  
 ホームページ www.Ken-Kyosai.or.jp